

京都から日本文化を発信！

2016年スタート「英語で京都文化実習」。



2016年からスタートした「英語で京都文化実習」。授業では、京都を代表する伝統文化である「生け花」と「茶の湯」にスポットを当て、ネイティブ教員が英語でその文化や歴史、思想や精神についてレクチャーする。なによりこの授業がユニークな点は、講義だけに終わらず、体験型の学習を取り入れていること。生け花の授業では、実際に生け花を生けて基本となる様式や技術を身に付け、茶の湯の授業では、お茶の点て方や茶室での動きなども体験する。世界へ向けて日本文化の発信が期待されている今、目標はこれらの文化を英語で世界へ紹介するスキルを身に付けること。受講した学生には、将来伝統文化をさらに発展させ、世界に京都文化を発信する、文化のプロモーターになってほしい。



## 世界の人に伝えたい 京都文化の素晴らしさ。

文化学部 京都文化学科2年  
柴田 あゆみさん

将来は、英語力を活かして観光業に携わるのが目標です。留学生とともに京都の神社仏閣などを訪れ、京都文化を目の前にディスカッションする授業もあり、まさに京都で文化を学ぶ面白さを実感。学んだ英語を実際に使える点でもやりがいがあります。また授業では、京都の工房を訪れ、職人の方の話聞く機会もありました。繊細で丁寧なものづくりを行う日本の伝統技術に感動し、ぜひ世界の人に伝えたいと思いました。9月からカナダへ3か月間「海外異文化研修」に参加します。授業やホームステイ先で京都や日本の文化をプレゼンテーションする機会もあるので、その素晴らしさを発信したいと思います。

日本の文化を深く理解するだけでなく、英語を使って説明できる力を身に付けることが国内外で重要になっています。日本の文化を理解するには、海外を見ることも大切。例えば、異文化で生活しながら学ぶ留学は、比較文化的視点を養い、自国の文化にも新たな気づきをもたらします。また、英語を学ぶ際に、文化的背景の影響を理解することを授業では大切にしています。例えば、アメリカのように人種や宗教など、文化背景の異なる人々同士が英語を話す場合は、使う言葉や話し方に配慮が必要です。こうした多様なコミュニケーションスタイルを知ることが、今後国際的なビジネスの世界で働く場合も役立つでしょう。

## コミュニケーションには 語学だけでなく、 文化への理解が大切。

文化学部  
ヒューバート ラッセル  
ポール准教授

# 世界に発信する文化学